

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
2	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4677700108
法人名	社会福祉法人 聖光会
事業所名	グループホーム 蒼水園
訪問調査日	平成 20 年 1 月 29 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 31 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

特定非営利活動法人・社会保障制度活用支援協会

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年2月7日

【評価実施概要】

事業所番号	4677700108
法人名	社会福祉法人 聖光会
事業所名	グループホーム 蒼水園
所在地	鹿児島県肝属郡南大隅町根占山本1250-1 (電 話) 0994-24-5444

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成20年1月29日 評価確定日 平成20年3月31日

【情報提供票より】(20年 1月 7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 15 人, 非常勤 人, 常勤換算 14.0 人

(2) 建物概要

建物構造	木造(1号館)・鉄骨(2号館) 造り 平屋建 1 階建て, 1 階部分
------	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000円(光熱費込)	その他の経費(月額)	実 費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	円
	夕食	円	円
	または1日当たり	800 円	円

(4) 利用者の概要(1月 7日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.4 歳	最低 74 歳	最高 102 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	津崎医院・永田歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住み慣れた地域が望める高台の法人の敷地内にグループホームがある。一号館は、平成15年に二号館は16年に建てられ、それぞれのユニットで理念も異なり独自のサービスを実践している。これからは、この独自性を活かし、各ユニットの職員の教育・研修を共有して、サービスケアの質の向上に役立たせることを望みます。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年の外部評価は、職員に報告したが、要改善点について職員の話し合いはなされていない。外部評価を実施する意義を理解され、職員全員で改善に取り組んでいくことを期待します。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員に意見を求め各ユニットの計画作成担当者が作り上げている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	平成18年12月から2ヶ月に一回開催されている。グループホームの近況報告にとどまっている。運営推進会議に多くの外部の方々の参加をいただき、事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合っ外部からの目を通して意見をいただく機会にすることを望みます。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族会は、年2回開催している。家族の意見が少なく運営に反映するまでになっていない。家族会の時だけの家族の意見でなく、面会時電話報告時など家族からの意見を記録に残し、運営に反映されることを期待します。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) グループホームは広い法人の敷地内にあり、入居者には厳しい坂もあり近隣との付き合いが難しい。学校の行事の見学、地域の行事に参加している。自治会に加入され、地域の行事の情報を集める機会をつくり、地元の方々との交流を広げることを期待します。

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1号館、2号館がそれぞれの理念を掲げている。地域との関わり合いを大事にすると、地域密着型の理念を掲げている。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットの朝礼時、全職員で唱和している。職員は、それぞれの理念を意識しながら、ケアをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームは広い法人の敷地内にあり、入居者には厳しい坂もあり近隣との付き合いが難しい。学校の行事の見学、地域の行事に参加している。	○	自治会に加入され、地域の行事の情報を集める機会をつくり、地元の方々との交流を広げることを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員に意見を求め作り上げた。昨年の外部評価は、職員に報告したが、要改善点について職員の話し合いはなされていない。	○	自己評価・外部評価を実施する意義を理解され、職員全員で改善に取り組んでいくことを期待します。
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	平成18年12月から2ヶ月に一回開催されている。グループホームの近況報告にとどまっている。	○	運営推進会議に多くの外部の方々の参加をいただき、事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合っ外部からの目を通して意見をいただく機会にすることを望みます。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者へ事業者から電話で相談している。	○	運営推進会議以外に、市町村担当者が事業所に足を運んでいただく機会をもち、サービスの課題を一緒に解決する関係づくりを積極的にされることを望みます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各ユニットで写真入のホーム便りを毎月発送している。面会時、健康状態、生活状況を話している。金銭出納は年2回報告し、家族に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は、年2回開催している。家族の意見が少なく運営に反映するまでになっていない。	○	家族会の時だけの家族の意見でなく、面会時電話報告時など家族からの意見を記録に残し、運営に反映されることを期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の他の施設からの移動のときは、すぐに実践している。新人の入職者の十分に時間をとって指導し、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受けたら内部研修で必ず報告している。新人職員は、法人全体でオリエンテーションをしている。	○	研修報告を各ユニット別に共有しているが、両ユニットの共有にされることを望みます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅のグループホーム4箇所とレクレーションを通して利用者の交流はあるが、職員の交流はない。	○	大隅のグループホームの職員間で勉強会・相互訪問などの機会をつくりサービスの質の向上に取り組むことを期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人の施設でショートステイを利用してからの入居のときは、すぐに馴染んでもらっている。居宅からの入居の時は家族と見学に来てもらい、サービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごししながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から昔の歌を教わったり、季節の料理の仕方を教わりながら、一緒に作っている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の時や入浴のときなど ケアをしながら利用者の意向を確認したり 聞いたりしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一回のケアカンファレンスで、職員と話し合って介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化に応じてその都度介護計画を見直している。変化が見られなくても6ヶ月に一回の見直しをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望があれば、職員が利用者の病院受診に同行している。法人内の看護師が訪問して利用者の様子を見てもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の承諾を得て、法人の協力病院にかかりつけ医を変更している。専門医の受診が必要なときは、専門医を受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化したときに、家族から終末期の同意書を貰っている。過去、家族から依頼され看取りを行ったことがある。 法人内の特老の看護師との連携ができています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議で秘密保持についての話はよくしている。プライバシーについてのマニュアルを作り、職員の理解に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、声かけをするが、寝ていたいときは本人のペースに合わせている。入浴は午後からの希望が多く毎日入浴できる。外出傾向にある人は、ドライブ・散歩に誘っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一号館は、介護度が高い人が多くミキサー食の方が多い。 職員は、利用者と一緒にテーブルで食べているが、各自弁当を持参しており、利用者と同じ献立の食事をしていない。	○	嚥下機能低下・誤嚥の予防のためにミキサー食にしているが、献立をそのままミキサーにかけけるのではなく、食材の味覚を味わえる工夫を期待したい。また、職員も同じ献立と一緒に食べ、利用者が親近感をもって楽しい雰囲気作りができることを望みます。
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を午後から希望される方が多く、午後から毎日入浴可能である。利用者は二人で入浴したり楽しんでいる。拒否する方は、職員が連携して声かけするなどして工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ・食後の下膳など利用者の力に応じて役割の場面作りをして支援している。ドライブに出かけ近隣の公園などで過ごし、気晴らしの支援をしている。	○	二つのユニットの交流を楽しみごと、気晴らしの支援に役立てることを希望します。
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お花見に出かけたり、年2回は外食をしている。本人の希望があれば墓参りに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	戸に鈴をつけたり、外出傾向のある方は、声かけ・見守りなどで鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回法人全体で風水害・火災想定で防災訓練をしている。隔月に、夜間想定も含めて非難訓練をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が献立を作っている。(1日1200kcal水分1200cc) 水分チェックをしている。状態によってミキサー食にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は、天井は高く吹き抜けになっており、レクレーションができるほど広々としている。ゆったりとしたソファがあり、台所から居間を見渡すことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの居室もベッドとタンスなどで個性がみられず、病院のようになっている。各居室の戸には大きく名前が書いてあったり、写真が貼って自分の部屋が分かるようにしてある。	○	家族に、利用者の使い慣れた馴染みのものがなぜ必要なのか話し、できるだけ協力してもらい、利用者の不安、ダメージを最小にできるように望みます。